

令和 8 年度 第 1 回四日市市立図書館協議会 議事録

1. 日時 令和8年8月26日（水） 午前10時～午前11時40分
2. 場所 四日市市立図書館 3階 会議室
3. 出席者 岡田委員、萱苗委員、國保委員、竹内委員、竹下委員、柘植委員、福永委員、
前川委員
図書館：谷本館長、川崎副館長兼奉仕係長、鈴木管理係長
まちなか拠点創造課：戸本課長、森田主幹
4. 欠席者 中井委員
5. 傍聴者 なし
6. 資料 資料1 令和8年度四日市市立図書館概要
資料2 知と交流の拠点施設整備事業等の進捗状況について

図書館協議会条例第4条により、会長に前川委員、副会長に福永委員を選任し、以後、会長を議長とし議事を進めた。

(1) 令和7年度事業報告・令和8年度事業方針について

事務局より、資料1をもとに説明を行った。なお、5月に空調設備が故障した影響により、予定していた行事を一部中止、延期したことについても説明した。

委員：空調設備故障後のレンタルエアコン導入など、迅速に対応してもらったと考えている。

委員：電子図書館の利用促進について。「小説を読む」はハードルが高い人もいる。例えば資産形成やビジネス、日常生活のために、という利用を PR できるとよいのでは。利用するための手続きは来館しなくてもできるのか。

事務局：来館の必要がない電子申請で手続きできるのは市内在住者のみで、在勤・在学者については、その証明のために、いったん来館をお願いしているのが現状である。一般利用者、特に図書館を利用していない人への PR を、試験的なものも含めて行っていきたい。

事務局：昨年度、電子申請による利用申請は 90 件であった。

委員：故障した空調設備について。本格的な修理はいつになる予定か。

事務局：当初の予定より、部品製作が早まり、9 月中に修理予定である。なお、現在レンタルしているエアコンは、10 月末まで継続予定。

委員：冬の暖房は、視聴覚ホールも入る予定か。

事務局：その予定である。

(2) 知と交流の拠点施設整備事業等の進捗状況について

事務局より、資料2をもとに説明を行った。

委員：とてもオープンで明るい印象を持った。その一方で、利用者はどこまで本を持ち出してどこから先は貸出手続きをとるのか。利用者の利便性から、1階のカフェで本を、という考えもありえそうだが、そのあたり図書館はどう考えているのか。

事務局：図書館の蔵書はきちんと管理していきたいという思いがある。そのため、3階より上の図書館エリアでは自由に持ち出し、例えば3階の本を4階や5階で自由に読むことができるようにしつつも、1・2階には貸出してからしか持ち出しできないような形をとりたい。建物全体を図書館としてとらえる、という考え方もご提案いただいているが、1階出入口にBDS（盗難防止装置）を設置した場合、鳴ったときの対応が難しい。図書館職員の目が届かない3階より下には、自由に持ち出しできないようにしたいと、伝えている。

委員：利用者の利便性も大事だが、大切な市民の財産である蔵書はしっかり管理してほしい。これについて、他の委員で何か意見があれば。

委員：これだけ規模が大きくなると、セキュリティはしっかりとする必要があると感じた。また、開館日数・時間を長くするならスタッフがすごい数になると思う。オープンするときに集めても動けないので、そのあたりもしっかり考えてほしい。

事務局：運営の方法についてはまだ検討段階だが、他市町の事例を参考にすると70人から80人というスタッフが必要になってくるとわれ、現在より増やす必要がある。運営の方法としてどんな手段があるのか考え検討していきたいと考えている。

委員：運営は直営でそのまま続く、と思ってよい。これまでも、こういう方法がある、というのは示しながらも、最終的にこれで行く、という意思表示がない。そのあたりはどうか。

事務局：規模が大きくなるので一部委託が入ることも考えるが、図書館の核となるところは直営でいきたいと考えている。

まちなか拠点創造課：図書館だけではない複合施設のため、1・2階部分の運営も同時並行で検討する必要がある。施設全体の整備にあたり、どういう管理運営をしていくのか、というところはまたお示しする必要があると考えている。

事務局：複合施設のため、施設全体の管理運営、図書館部分についての管理運営、というのは切り分けて考えていかないとけない。

委員：蔵書が増えることになるが、3階の児童エリアがすごく広く、4階、5階とどんどん狭くなっており、手狭ではないのか、という印象がある。

事務局：3階は児童書以外に、育児関係の本も置く予定である。また、3階は、自動返却仕分け機や予約本受け取りコーナー、おはなしの部屋などもあり、それほど広くはならず、低書架をメインに置くことを考えると、冊数もそれほど多くはないと考えている。4階は9門と、新聞や雑誌の一部を置く予定。5階は9門以外の0から8門の本を、6階のティーンズエリアには進学やキャリア教育の本のほか、多言語の本を置いてはどうかと個人的に考えている。

委員：博物館に丹羽文雄の展示があるが、それらを引き取るような話や可能性はあるのか。

事務局：ない。現在も、郷土作家コーナーには丹羽文雄の本を置き、原稿のレプリカを展示しているが、その程度の展示を想定している。あとは1階部分にも図書館の要素を出したほうがよい、ということで、丹羽文雄の本を閲覧用に置くのもよいと思っている。

委員：中井委員がアドバイザーとして参加しているが、その次の年度も継続してもらえるのか。

まちなか拠点創造課：基本設計は、図書館の機能、配置をどうするか、外観とかも含めてまとめていくもので、アドバイザリー会議において、図書館協議会委員である中井先生にもご意見をいただいている。基本設計は今年度の予定であり、来年度以降も引き続きアドバイザリー会議を行うことは考えていないが、引き続きアドバイスをいただくような機会も必要と思うところもあるので、今後の検討としたい。

委員：現図書館の会議室のように、図書館ボランティア団体が勉強会をしたりする場所は無料で使用できるのか。また、ロッカーの設置はどうか。

事務局：図書館ボランティアの方が使用する部屋は、7階の研修室あたりを想定している。

事務局：スターアイランド跡地での検討時に、図書館ボランティア団体の方に対するヒアリングも行っており、そのときの要望は承知している。少なくとも一般の利用者が利用できるロッカーは設置予定である。また、貸部屋についてだが、図書館ボランティア団体については、引き続き無料で、現図書館と同様に活動できるようにとは考えるが、地区市民センターなどの貸部屋が有料化されていく中で、図書館だけどこまで保てるか、という懸念はぜひぶん以前からある。

委員：1点目、一般の方を対象に、1階や2階に有料の貸部屋ができる構想はあるのか。2点目、移動図書館の拠点が、少し離れたところにあるということだが、これは不便にならないのか。最後に、運営についてだが、市民が利用しやすいよう開館時間が長くなるのは嬉しいことだが、働くスタッフについては、やはり市の直営であることが大切であると考えている。よろしく願いたい。

まちなか拠点創造課：1点目について。検討段階だが、使っていないときは例えば会議もできる、という利用方法はある。例えば付近にも本町プラザなどいろいろ会議室はあるが、そういう施設の利用状況を考えると、会議室という単独の用途ではなく、例えば練習室が空いているときは会議室としても使える、という「重ね使い」という考え方が非常に重要だと思う。

事務局：2点目の自動車文庫の件について。今、同じ建物にあるものが分かれることになるので、やはり不便にはなる。しかしながら、どうしても新しい施設にそのスペースを設けることができない。運営上、自動車文庫は分館扱いにしており蔵書も別であるため、利用者に不便はないようにできる。職員側は物理的に距離があるので、どうしても不便な部分は出てくると思う。

委員：7階部分の録音作業室は、基本的に図書館でボランティアしている方が利用する、という想定か。社協の登録団体が総合会館で作業をしているが設備が古くなってきている。同じようなエリアだし、一つに集約できる方が有効活用になるのでは。今、どういった想定か。また、プレイスペースに「おもちゃ図書館」を入れてはどうか。障害のある子もない子も利用できるもので、育児相談もある。総合会館よりこういうスペースのほうが、より市民の方にとっては身近で、交流も生まれるのではないか。

事務局：録音作業室については、図書館が委託する録音資料の作成をするための使用を想定しており、他の使用は想定していない。また、プレイスペースは、おもちゃで遊ぶというよりは、体を動かせるようなちょっと発散できる場を想定している。

委員：1階、2階について。バックヤードスペースが少し狭いように思うので、アドバイザーの先生に一度確認をされてはいかがか。また、利用方法として、例えば映写設備があれば国際会議を招聘するとか学会を開催するとかの機能も持たせることができるのでは。そのあたりはいかがか。

まちなか拠点創造課：この小規模ホールは、市民の方が使いやすい規模のホールを整備するというのが基本にある。大きいホールは、文化会館第1ホールやあさけプラザにあるため、あさけプラザよりは本格的で、市民が使いやすい規模のホール、というのを、想定している。音響や照明などの設備については、アドバイザー会議の中で、三重大の大月先生にアドバイスをいただきながらすすめている。また、利用形態については、演劇や音楽は当然想定している。必要になるバックヤード部分については、広さに余裕がないため効率的に使える形で考えていきたい。今回の指摘やアドバイスも踏まえ、しっかり検討していきたい。

また、ホールの使い方という面では、例えばコンベンション的な使い方など、演劇や音楽だけでなくいろんな使い方が想定されるので、いろんなものに使っていただければありがたいと思っている。映写室については、そういったものを設けることができるのかどうか、というところも含めて、今後の検討と思っている。

また、知と交流の拠点施設では250席程度の小規模ホールだが、今後、大学の整備も別途並行して進めているため、その中で講堂などを作ることも考えられる。

委員：映写としては、会議だけでなく上映会とかもある。

まちなか拠点創造課：いろいろな使い方ができるように検討していきたいと思う。ちなみにこの小規模ホールはロールバック形式で、この座席が後ろに収納されることで平場のスペースになる。いろんな活動ができる多目的ホールということで検討を進めていきたい。

委員：いろいろなことを考えてもらっており、施設の完成が楽しみである。説明の中で、学習席数が少ない、という意見があったとのことだが、家庭の中で落ち着いて学習に取り組む環境が備わっていない子どもたちも結構いる。そういう人たちにとっても安心して学べる施設にもなると考えるので、可能な範囲で学習スペースは確保してもらえると嬉しい。

委員：インフラ的な話だが、図書館システム以外にも、電子図書館やデータベースやいろいろと使われているが、クラウドを使うことを想定しているのか。3Dプリンター以外にもモデリング用PCなどが必要となると思うが。

事務局：現在も、図書館システムはクラウドサービスを利用して構築している。3DプリンターやUVプリンターについては、どのような回線環境で行うかはこれからの検討となる。Wi-Fi環境は全館入れることになると思う。

委員：上下の移動について。エレベーターは2基あるが、最近のエレベーターはなかなか来ない。階段の利用がしやすいとよいと思うのだが、これは扉がついているのか。

まちなか拠点創造課：エレベーター裏手の階段の扉は防火避難上ついているものだが、通常は開いており、通行可能である。また、上下階を行きやすいように、吹き抜け付近にも階段がある。

委員：市民・利用者のことを考えるのは大事だが、スタッフが働きやすい環境で、という視点をもっていただきたい。出勤してエレベーターで7階まで上り、7階で用意をして、実際には3階とかで働くという形である。例えば交代で、ちょっとバックヤードで休憩がとれるスペースがあるのか。もちろん元々仕事をする場所であり、図書館側は主張できないと思うので、うまく調整してほしい。

まちなか拠点創造課：そのような働きやすい環境作りを目指してやっていきたい。ちなみに、バックヤードに、通用口から入って上まで行けるような職員用エレベーターを設置する予定である。休憩スペースについても、やはり税金を使っていく中で、当然必要十分な量を確保できるように、しっかり要望をきいて施設整備に反映したいと思う。

(3) その他

特になし